

描出した。又、renogram curve より peak time, peak count 及び T 2/3 を求めた。我々は生体腎移植患者に対し通例移植後2日目より、1週間に2回約1か月間腎シンチを施行している、

〔症例〕 LD83. 32歳の男性。母親の左腎を患者の右腸骨窩に移植した。術後7日目に臨床的に急性拒絶反応と診断し免疫抑制法を強化した。術後15日目には血清クレアチニン (S-Cr) 6.5 mg/dl までに上昇するも以後低下し26日目には S-Cr 1.6 mg/dl にまで低下した。この症例で術後26日目までに計7回の ^{99m}Tc DTPA による腎シンチを行ない経過観察した。S-Cr の上昇する2日前の T 2/3 は、術後2日目の7分より20分と延長し、peak, count の低下、peak time の延長がみられた。術後7日目には T 2/3 は測定不能となり renogram にて明らかに腎血流の減少と排出の遅延がみられた。又、S-Cr の低下の傾向がみられた術後16日目には、renogram にて明らかに改善がみられた。

〔結語〕 ^{99m}Tc DTPA による移植腎シンチグラムは移植腎の動的変化を観察することができ、移植腎機能障害の相を知ることができるという有用性がある、今回我々は拒絶反応を示した症例にて ^{99m}Tc DTPA 腎シンチを用いて経過観察を行ない、臨床所見、血清学的検査より腎シンチの方が、早期に変化を示し、拒絶反応の早期診断、治療の効果判定にもきわめて有用であることが判明した。今後とも移植腎機能の判定の大きな武器として ^{99m}Tc DTPA 腎シンチを活用したいと考えている。

32. 腎性高血圧症のレノグラムの検討

改井 修 仙田 宏平 佐々木常雄
松原 一仁 小林 英敏 真下 伸一
石口 恒男 児玉 行弘 大鹿 智
岡江 俊治 安部哲太郎 (名大・放)

腎性高血圧症と血管造影及び臨床的諸検査で確診された14例(腎血管性7例、腎実質性7例)についてレノグラム曲線のセグメントAの高さHaとセグメントBの高さHbの比であるHb/HaとセグメントBの勾配Sbの二つをパラメーターとして絶飲絶食時(脱水時)のレノグラムと水400mlを検査30分前に飲ませた水負荷時のレノグラムとを比較検討した。絶飲絶食時のレノグラムでは従来の報告にもみるように腎機能を正しく反映せず、Hb/Ha, Sbのパラツキも大きく特異性はみられなかった。

水負荷時のレノグラムでは、一般に正常の場合は、Tmax, T 1/2は短縮し、Sbの勾配も急になるが、今回我々が対象とした腎性高血圧症では、Tmax, T 1/2は正常よりも延長し、Sbも低値となった。またHb/Haのパラメーターも正常値よりも低い値となり腎血流量が減少していることをしめしていた。したがって絶飲絶食時よりも水負荷時のレノグラム曲線がよりよく腎機能を反映していると考えられた。

34. ^{99m}Tc -diethyl-IDA 肝摂取率 (Ku 値) ならびに排泄率 (Ke 値) の検討

児玉 行弘 仙田 宏平 佐々木常雄
三島 厚 松原 一仁 小林 英敏
改井 修 真下 伸一 石口 恒男
大鹿 智 岡江 俊治 (名大・放)

肝機能正常4例および各種肝胆道疾患28例の ^{99m}Tc -diethyl-IDA による肝ヒストグラムを作成し、Ku 値およびKe 値を求めた。次に、これら値と生化学的肝機能データとの相関を調べ、本製剤による肝ヒストグラムの定量的評価について検討した。

正常例群におけるKu 値およびKe 値は、それぞれ、平均が23.4%/min, 3.3%/min, 標準偏差が3.4%/min, 0.6%/min, であり、従来の製剤から得られた値よりも高値を示した。このことより、本製剤の肝における代謝は非常に速いと推測した。Ku 値およびKe 値と生化学的肝機能データとの相関を調べたところ、Ku 値がALPと、またKe 値が、ALP, TB およびDBと有意(p < 0.01)に相関することを認めた。従って、肝ヒストグラムの定量的評価は、閉塞性肝疾患を中心とした肝機能診断に意義あるものと考ええる。

34. 肝 SOL の核医学的複合診断法の有用性について

亀井 哲也 山崎 俊江 立野 育郎
(国立金沢・放)

肝 SOL の検出を目的として、核医学的複合検査を施行した約1年間の症例をまとめた。

肝シンチ上、欠損様の所見をみた場合、特に生理的圧痕部及びその近辺に欠損様所見をみた場合、それが真のSOL 否か迷う場合がある。このような場合、肝・胆道シンチを施行することにより、胆嚢床部及び肝門部の